

研究主題

一人一人に確かな学力をはぐくむ学習指導Ⅱ
～豊かな読解力の育成～

研究のねらい

子ども一人一人に確かな学力をはぐくむために、「読み・書き・算」の力をつけ、子どもに豊かな読解力をつけることのできる学習指導について実践を通して明らかにする。

目指す子ども像

- 目的意識，相手意識をもって自分の考えを述べることができる子ども
- 叙述に従って根拠を明らかにできる子ども
- これまでの経験を取り入れ表現することができる子ども

研究仮説

効果的・効率的に「読み・書き・算」の力をつけ、それを生かして、豊かな読解力をつけるための支援や指導に生かす評価などを工夫すれば、子ども一人一人に確かな学力をはぐくむことができるのではないか。

具体的な取組

<p>学習の基盤となる 【読み・書き・算の力むける工夫】</p> <p>ア チャレンジタイムの取組</p> <ul style="list-style-type: none">○ 国語タイム○ 算数タイム○ 読書タイム <p>イ 子どもの変容</p> <ul style="list-style-type: none">○ 本校作成の基礎基本定着度テストの分析と活用	<p>豊かな読解力をつけるための 【授業づくり】</p> <p>ア 授業の工夫</p> <ul style="list-style-type: none">○ 「読む力」をつける手立て○ 「考える力」をつける手立て○ 「表現する力」をける手立て <p>イ 指導に生かす評価の工夫</p> <ul style="list-style-type: none">○ 「書く」活動との関連を図った評価と支援の工夫	<p>確かな学力の定着につながる 【家庭学習】</p> <p>ア 授業の事前・事後指導としての家庭学習の構想</p> <p>イ 家庭学習の手引きによる家庭学習の習慣化</p> <p>ウ PTA等での啓発</p>
---	--	--

1 本校が考える「読解力」とは

情報を正しく読み取り，自分の考えを豊かに表現する力
 (仮説1) (仮説2) (仮説3)

【仮説と手立て】

<p>仮説1</p> <p>「読み」の視点や目的を明確にすれば，子どもたちは情報から内容を正しく読み取ることができるのではないか。</p>	<p>手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「読み」の目的の明確化 ○ 「読み」のスキルの明確化
<p>仮説2</p> <p>情報との出会わせ方を工夫すれば，子どもたちは自分の考えをもつことができるようになるのではないか。また，適切な発問や他の考えとの交流をすれば，自分の考えを深めることができるのではないか。</p>	<p>手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 情報との出会わせ方の工夫 ○ 発問の工夫 ○ 交流の場の工夫
<p>仮説3</p> <p>自他の「読み」を交流する場を工夫すれば，お互いの表し方のよさを認め合い，自分の表し方に生かしていこうとするようになるのではないか。</p>	<p>手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 表現や発表の仕方の工夫 ○ 書く活動との関連

2 これまでの取組

読解力は，本来，全教科で育成していくものであり，さまざまなテキストを活用して取り組んでいくものであるが，本校では，児童の実態や先生方へのアンケートから，国語科を中心とし，「書かれたテキスト」を活用して，豊かな読解力の育成を図ることにした。

(1) 仮説や手立てと学びの過程との関連

- 基本的な学びの過程（一単元）

過程	主 な 学 習 活 動	仮説や手立てとの関連
つかむ	1 題名から内容を想像する。 2 本文（テキスト）を読み通す。 3 初発の感想をもつ。	
見通す	1 自分の課題を見つける。 2 共通の課題を設定する。 3 課題解決のための学習計画を立てる。	仮説1 「読み」の目的の明確化
調べる	1 設定を調べる。 2 課題解決のために有効な「スキル」を基に内容を詳しく調べる。	仮説1 「読み」のスキルの明確化 仮説2 情報との出会わせ方
深める	3 主題や筆者の主張などを考える。 ○ 書かれている内容に即して考える。 4 考えた内容を発信・交流する。 ○ 書く活動の充実（発表内容） ○ みがき合い，高め合い（交流）	仮説2 発問の工夫 交流の場の工夫 仮説3 表現や発表の仕方の工夫
ふり返る生かす	1 主題や筆者の主張などをまとめる。 ○ 題名に込められた思い ○ 作品全体を通して伝えたい願い ○ みがき合い，高め合いの活動後の自分の考え（変容） 2 作品のよさや学習したことを生かして感想にまとめ，作品作りをしたり，読書活動に生かしたりする。	仮説3 表現や発表の仕方の工夫 「書く」活動との関連

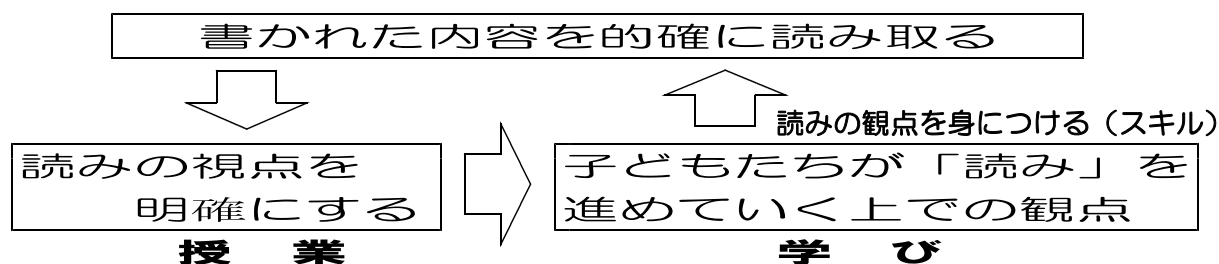
○ 基本的な学びの過程（一単位時間）

過程	主 な 学 習 活 動	仮説や手立てとの関連
つかむ	1 本時の学習課題をつかむ。 ○ 前時までの活動をふり返る。 ○ 学習計画表を確認する。	仮説1 「読み」の目的の明確化
見通す	2 学習の進め方について話し合う。 ○ 学習方法や順序に見通しをもつ。	
調べる	3 自分なりの考えをもち、調べたり、読み取ったり、表現したりする。 ○ 思考的活動 ○ 創造的活動	仮説1 「読み」のスキルの明確化 仮説2 情報との出会わせ方
深める	4 自分の考えを吟味、検討し、高める。 ○ 話し合う。 ○ 考えをまとめる。 → 修正・補充・深化 ○ 発表会、鑑賞会をする。	仮説2 発問の工夫 交流の場の工夫 仮説3 表現や発表の仕方の工夫
ふり返る・生かす	5 学びをふり返る ○ 自己評価・相互評価 6 今後の学習について話し合う。 ○ まだ明らかになっていないこと ○ さらに発展させるために調べたいこと	仮説3 「書く」活動との関連

(2) 共通実践事項

- 授業の始まりや終わりに「音読タイム」を実施する。
- 進んで音読できるようにするために、家庭との連携を図る。（「音読カード」の活用）
- 「読み」のスキル（観点）を明確にし、系統立てて指導する。

(3) 「読み」のスキル(観点)の考え方



テキストに書かれた内容を正しく「読み取る」ためには、「読み」の視点や目的などを明確にする必要がある。「読み」の視点を学習の中で扱うことによって、子どもたちは「読み」を進めていくためのポイント（観点）を学ぶことになる。「読みの観点（スキル）」を身につけた子どもたちは、その力を使って書かれた内容を正しく読み取っていく。

→ 子どもたちが「読みの観点（スキル）」を身につけられる「授業（学習活動）」を進めることにより、「読み取る力」が高まっていく。

「読み」のスキル（観点）の系統

1 全領域（物語文、詩、短歌・俳句、説明文）

観 点	課 題 例	1年	2年	3年	4年	5年	6年
題 名	ア 題名から話の内容を想像しよう。	○	◎	◎			
	イ どんな題名のつけ方をしているか、調べよう。			○	◎	◎	
主 題	ア 作者・筆者が、作品を通して伝えたいこと（主題）を考えよう。			○	◎	◎	
	イ 作品の特徴的な表現方法を見つけ、作者・筆者の願い（思い）や意見に対する自分の考えをまとめよう。				○	◎	◎

2 物語文、詩、短歌・俳句

観 点	課 題 例	1年	2年	3年	4年	5年	6年
時	○ いつ（月日、時刻、季節等）の話か、調べよう。	○	◎	◎			
場 所	○ どの話か、調べよう。	○	◎	◎			
登場人物	ア 登場人物を探そう。	○	◎	◎			
	イ 中心人物（主人公・主役）を探そう。	○	◎	◎			
	ウ 登場人物の行動、性格や考え方を調べよう。	○	○	◎	◎		
	エ 中心人物の変化に関わる人物（対役）を探そう。			○	○	◎	◎
事 件 出来事	ア 何が起こったのか、調べよう。（事柄）	○	◎	◎			
	イ 起こった事件（出来事）を整理しよう。（事柄の順序）	○	○	◎	◎		
	ウ 二番重要な事件（出来事）を見つけよう。（内容の中心）			○	◎	◎	
構 成	ア どんな話か、短くまとめてみよう。	○	◎	◎			
	イ 場面毎に分けよう。		○	◎	◎		
	ウ 起承転結に分けよう。			○	○	◎	◎
対 比	ア 反対の表現（対比）になっている所を探そう。		○	○	◎	◎	
	イ 対比的に書かれたことが何を表しているか、考えよう。				○	◎	◎
クライマックス	ア 中心人物の行動や気持ちが大きく変わる所を探そう。			○	◎	◎	
	イ クライマックスの前後で、中心人物の行動や気持ちがどのように変わったのか、調べよう。				○	◎	◎
	ウ 中心人物の行動や気持ちが変わった理由を探そう。				○	○	◎
オマツパ	○ どんな表現効果があるか、考えよう。			○	○	◎	◎
色彩語	ア どんな色が使われているか、調べよう。			○	○	◎	◎
	イ 使われている色には、どんな意味があるか、考えよう。				○	○	◎
比 喩 擬人法	ア 何か・人に、たとえられている言葉（文）を探そう。			○	◎	◎	
	イ たとえることで、どんな表現効果があるか、考えよう。				○	◎	◎
リフレイン	ア 繰り返し出てくる言葉（文）を探そう。			○	◎	◎	
	イ 繰り返すことで、どんな表現効果があるか、考えよう。				○	◎	◎
体言止め 倒置法	ア 普通の文とどこが違うか、考えよう。			○	○	◎	◎
	イ 普通の文に書き直してみよう。			○	○	◎	◎
	ウ どんな表現効果があるか、考えよう。				○	○	◎
視 点	○ 何（誰）の視点で書かれているか、調べよう。				○	◎	◎
象 徴	○ 語句（キーワード）に込められた意味を考えよう。				○	○	◎

3 説明文

観 点	課 題 例	1年	2年	3年	4年	5年	6年
形式段落	○ 形式段落に番号をつけよう。	○	◎	◎			
キーワード	○ 大切な語句（キーワード）を見つけよう。		○	◎	◎		
要 点	○ キーワードを基に、要点をまとめよう。		○	○	◎	◎	
事実と 意見	ア 事例と説明の文（段落）を分けよう。	○	◎	◎			
	イ 事実と意見・感想が書かれている部分に分けよう。		○	◎	◎		
	ウ 筆者の意見が、どのような事実に基づくか、考えよう。			○	◎	◎	
意味段落 指示語 接続語 構 成 小見出し	ア 「問い」→「答え」の段落（文）を探そう。	○	◎				
	イ 指示語・接続語を基に、段落の関係を考えよう。		○	○	◎	◎	
	ウ 意味段落に分けよう。			○	◎	◎	
	エ キーワードや大切な文（キーセンテンス）を基に小見出しをつけよう。			○	○	◎	
	オ 文章構成図に表そう。				○	◎	◎
要 約 要 旨	ア キーワードやキーセンテンスを基に段落を○字以内にまとめよう。			○	○	◎	◎
	イ キーワードやキーセンテンスを基に筆者の主張を○字以内にまとめよう。				○	◎	◎

☆ 「○」＝扱う学年（目安） 「◎」＝身に付けさせたい学年の到達目標（実態に応じて）

☆ 「＝」より上＝基本的に扱いたい観点（ただし、実態に応じて軽重、精選、重点化可）

3 本年度の具体的な取組

研究授業は、1単位時間レベルにおいて深めていく。

〈仮説1の検証〉

- ・ 初発の感想などをもとに、「読み」の目的を明確にするようにした。



子どもたちは学習の見通しをもち、進んで取り組めるようになってきた。

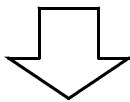
〈仮説2の検証〉

- ・ 問いや思いを喚起する資料や事象を提示するなど、情報との出会わせ方を工夫した。
- ・ 読みのスキルを明確にし子どもたちに示すようにした。



子どもたちは正しく情報（内容）を読み取り、自分の考えをもつことができるようになってきた。

前提で



踏まえて

本年度の研究授業では・・・

仮説3の検証

「読み」の交流の場をどのように工夫すれば、子どもたちに豊かな読解力を身につけさせることができるだろうか。

◇目指す子ども像◇

低学年：自分の思いや考えを発表できる。

中学年：一人一人の感じ方に違いのあることに気付くことができる。

高学年：自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

研究授業の計画

	提案授業	検証授業	総括授業
期 日	6月28日	10月25日	11月22日
学 年	3年生	2年生	5年生
単元名	三年とうげ	お手紙	わらぐつの中の神様

★ 本年度は、どの学年でも文学的な文章（物語文）を取り上げる。

【実践例1】 **提案授業**

[平成22年 6月28日実施]

1 単元 本と友達になろう (教材「三年とうげ」「本はともだち」光村3年上)

2 目標

- 進んで本を読み、そのおもしろさを友達に紹介しようとしている。
- いろいろな読み物に興味をもち、友達と読んだ本について感想や考えを交流し合うということで、さまざまな読み方があることを理解している。
- 本のおもしろさが読み手に伝わるように工夫しながら、必要のある事柄を収集したり、選択したりして、本のおびを作っている。

3 本時 (8 / 15)

(1) 目標

「三年とうげ」のおもしろいところを交流する場を通して、友達との考えとの相違点に気づき、さらに、多様な読みの観点があることに気づき、そのよさを認めることができる。

(2) 本時の指導に当たって

まず、自分の選んだ場面を音読することで意識を高め、自分の読みと友達の読みとの相違点に気づかせていきたい。次に、ペアでの意見交流を通して考えを明確にし、友達との感じ方の違いに関心をもたせていくようにしたい。その際には、事前に記入しておいたプリントを提示しながら、発表することで、相手に伝えるという意識を高めたい。さらに、同じ場面を選んだ児童でグループを編成し意見を交流することで、その中にも相違点があることに気付かせたい。全体交流の場では、グループの意見集約を発表したり聞いたりする中で、様々な読みの視点や観点があることに気づき、認めることができるようにしたい。

(3) 実際

過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ
つかむ見通す	1 音読を行う。 2 前時までの学習を振り返り、本時の学習の範囲を確認する。 3 本時の学習の課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">三年とうげのおもしろいところをみんなに紹介しよう。</div>	5分	○ 自分が選んだ部分がかかれている場面を音読する。 ○ 事前に選んだ文章を、A4の紙に書かせておく。その際には、文字の大きさや色などの工夫をすることによって相手に伝えることを意識できるようにしていきたい。(本の帯作りにつなげる。)
調べる	4 自分の用意したプリントをもとに、おもしろいと思ったところと、その理由を紹介する。ペアで紹介し、グループを編成する。	7分	○ 事前にプリントを各自が作成することで、自分の読み取ったおもしろいところに対する意識を高め、自分の考えをはっきりさせながら、意見を交流できるようにする。
	5 同じ部分を選んだ児童で集まり、選んだ理由を紹介し、話し合う。 6 選んだ理由の共通点や違いについて、グループでまとめ発表する。	8分	○ 選んだところを、書画カメラを使い視覚的にも訴え、興味を高める。 ○ 同じところを選んだ児童でグループを編成することによって、グループ内で自分が選んだ理由を述べさせ、様々な理由があることに気付かせる。
深める	7 各グループの発表を聞き、さまざまなおもしろさや感じ方に触れた感想をまとめる。	15分	○ グループ内で出た意見をまとめ、交流して思ったことを代表に発表させる
ふり返る生かす	8 感想を発表する。 9 次時は、「三年とうげ」のおもしろさを紹介する帯を作ることを知る。	10分	○ 代表者の発言を聞き、感じたことをノートにまとめさせる。その際には、児童が自分の感じ方との違いや考え方の変容を考えることができるように、書き方のモデルを示す。 ○ 時間に余裕があれば、自分の選んだ場面をもう一度音読する。

【実践例2】 **検証授業**

[平成22年10月25日実施]

1 単元 気持ちを考えて読もう (教材「お手紙」 光村2年下)

2 目標

- 登場人物の言動に気をつけて、登場人物の気持ちや場面の様子を想像しながら読んだり、声に出して読んだりし、ふたりの友情のお話を楽しむことができるようにする。
- 主語と述語の役割と言い方を知り、気をつけて読んだり書いたりする。

3 本時 (9/18)

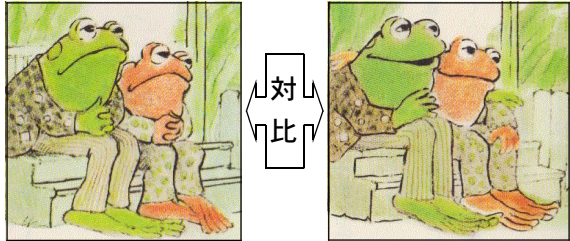
(1) 目標

「1の場面」と「4の場面」の挿絵を対比して分かる表情などの違いや叙述から、ふたりとも「かなしい気分」が「しあわせな気持ち」へと変化していることを確認し、これまでの学習をふり返りながら気持ちが変化したわけを話し合い、ふたりの友情について考えることができる。

(2) 指導に当たって

- 本時のめあて「二人はどんな友だちか」は、中心課題「二人の気持ちが分かる音読発表会」のための学習であることを意識づけるようにする。
- 板書を工夫し、対比しやすいようにするとともに、挿絵や叙述を対比し、物語の展開からがまくんとかえるくんの気持ちの変化のわけを考えることで、ふたりの友情関係を考えさせるようにする。
- 学習形態を工夫することで、一人一人の読みを高めていくようにし、自分の考えの根拠も述べられるように発問を工夫するようにする。

(3) 実際

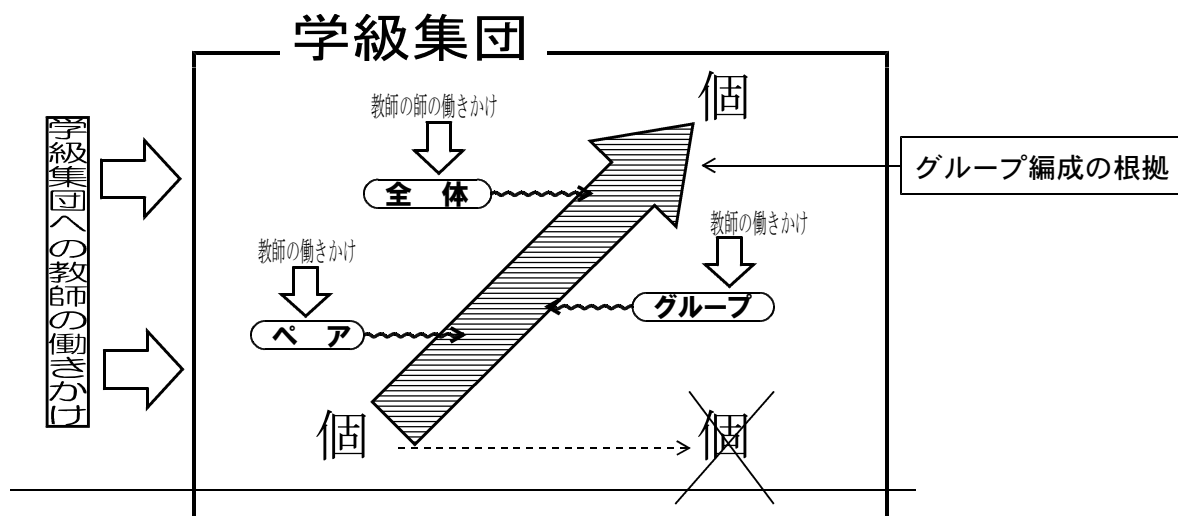
過程	主な学習内容	時間	教師の具体的な働きかけ
つかむ・見通す	1 2枚の挿絵を対比して、本時のめあてを確認する。 ・ 目や口がちがう。 ・ 肩を組んでいるよ。 ・ 足もちがうよ。 ↓ ・ 1の場面はかなしい気分 ・ 4の場面は幸せな気持ち なぜ、かわったのかな? ↓ ふたりは、どんな友だちかな。	7分	○ 本時のめあてを確認するために、「1の場面」と「4の場面」の挿絵を対比し、ふたりの表情などから「かなしい気分」が「幸せな気分」へと変化していることをとらえるようにする。 
	2 学習方法を確認する。		
調べる	3 全文を音読する。	3分	○ 物語の展開や登場人物の言動の変化を確認するために、全文を一文読みで音読する。 ○ 気持ちの変化のわけやどんな友だちか考えられるように、ワークシートを準備する。
	4 気持ちの変化のわけを話し合う。 ・ 自分の考えを書く。 ・ ペアで発表する。 ・ みんなに発表する。 ↓ ・ かえるくんがお手紙を出してくれたから ・ かえるくんの思いやりがうれしかったから		
深める	5 ふたりはどんな友だちかを考え、発表する。 ・ 自分の考えを書く。 ・ ペアで発表する。 ・ みんなに発表する。	分	○ 豊かな読みへと高めるために、まずペアで発表し、それから全体へと広げるようにする。 ○ 子どもの自由な発想を大切にしながらも文章の中の言葉や文を手がかりにするという意識をもつことができるように、どうしてそう思ったのか尋ねるようにする。 【評】自分の考えを文章中の言葉や文と関連づけて発表している。
	6 本時のまとめをする。 ふたりは、あいての気持ちを分かり合える友だちだな。		
ふり返る・生かす	7 「4の場面」の音読する。	5分	○ 本時の学習をまとめるために、「4の場面」を音読し、ふたりの気持ちが感じられるようにする。 ○ 音読発表会に向けて意欲を高めていく。
	8 次時の学習を確認する。 ・ 音読発表会の練習に入ることを確かめる。		

4 成果と課題

- 同じ場面を選んだ児童でグループを編成した結果、「いろいろな意見があっっておもしろかった」「自分と同じところを選んだ人がいなくて驚いた」「他の人の意見も、理由を聞くとうかった」などの感想が出され、グループでの交流は違いに気づき自分の読みを深めていくのに有効であった。
- お互いの意見を認め合うことで、自分の考えに自信を持ち、第四次の「本の帯をつくる」活動では、それぞれの読みを生かした紹介文を書くことにつながることができた。
- 交流の場のあり方（紹介や発表、討論・ディベート）などの工夫が必要である。
- 交流の場では、読みの視点・発表の視点をおさえた発問をすると、読みが高まる。

- 交流するためには、自分の考えをもち、考えをまとめ（書く）、発表することが必要である。挿絵や叙述の対比は、子どもたちに自分の考えをもたせるのに有効である。
- 板書やワークシートは、自分の考えをまとめさせるのに有効であるが、その際は、子どもの思考の流れにそった板書やワークシートにする工夫が必要である。
- ペアやグループの学習形態を取り入れると、少数意見が埋没してしまいがちである。指導者は意図をもって支援することが大切であり、発問を吟味する必要がある。また、発表話型と関連させて、根拠の示し方なども指導しておくといよい。

- 個の「読み」を交流することで、それぞれの「読み」を深めていくことが、学級集団全体を高めていくことになる。



「読み」の交流の場における工夫

- 学習形態をどのように組み合わせるか。
- 意見交換カードやワークシートの活用
- 発表のしかたや聞き方は？
- 聞くときの視点を、どう与えるか。
 - ・同じところは？
 - ・違うところは？
 - ・似ているところは？ など
- 教師の発問・助言は？
- 評価はどうする？